

子どもたちの明日を守る交通安全



交通事故を未然に防ぐには、ドライバー、自転車を運転する人、歩行者、一人一人が交通ルールを守ることが大切です。交通指導員の取り組みや、楽しく学べる交通安全教室を通して、交通安全について考えます。

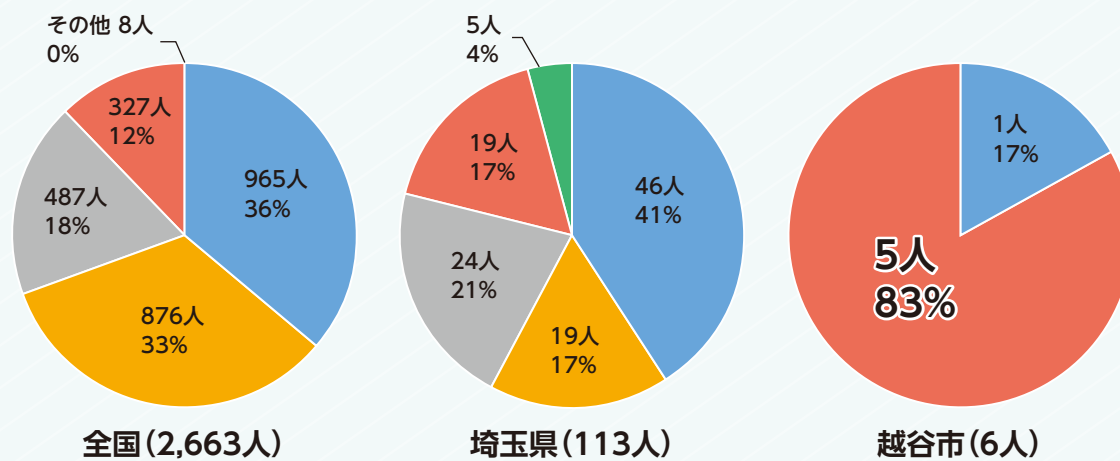


01 交通死亡事故状況

昨年、全国で2,663人が交通事故で亡くなりました。特に埼玉県は、全国5位の113人と高い数字となっています。市内では6人が亡くなり、県内3位となっています。

市内の死亡事故のうち5人が自転車に関係し、全国・埼玉県と比べて高い割合となっています。

歩行者…
自動車…
二輪車…
自転車…
その他…



02 地域の子どもたちを見守る交通指導員

子どもたちや地域の安全を守る交通指導員。登校時に通学路の交差点に立ち、晴れの日も雨の日も、交通安全指導(立哨指導)を行っています。

交通指導員は、制服を着用していますが、警察官ではありません。市の会計年度任用職員として、立哨指導をはじめ、市内の小学校や幼稚園、保育園等で交通安全教室を実施しているほか、地域のイベント等で参加者の安全を確保しています。現在、市内の交通指導員は68人。指導員歴が40年以上のベテランもいます。

市では交通指導員の募集を定期的に行っています。

関くらし安心課 ☎963-9185



立哨指導をする交通指導員(上)
子どもたちが安全に横断歩道を渡るよう、常に周囲に気を配ります。



小学校での交通安全教室(左)
正しい判断や信号の見方、自転車の乗り方などを教えています。



ショッピングモールでの交通安全運動(左)
交通安全の大切さを伝えています。

私たちが交通指導員です。



交通指導員連絡協議会
会長 齋藤さん

「交通指導員の制服を着ると身が引き締まります。子どもたちの安全をしっかりと見守っています」と話す齋藤さんは交通指導員になって13年目。

齋藤さんが交通指導員を始めたきっかけは、通学路に制服姿で立っている交通指導員を見たお孫さんの「カッコいい!」という一言。お孫さんは大学生になりましたが、齋藤さんは今も変わらず地域の子どもの笑顔を守っています。「見守ってくれてありがとうと感謝されることで心が温かくなります」「これからも子どもたちを見守り続けようと思います」

子どもたちの安全を守る交通指導員の仕事について、インタビューしました。



交通指導員連絡協議会
副会長 浅さん

「子どもたちの命を守ることを第一に活動しています」「子どもたちが被害者にならないように、そして将来加害者にならないように、交通ルールの大切さを学んでほしいです」と話す浅さん。子どもたちを見守りながらできる活動に魅力を感じ、交通指導員として20年以上活動しています。

「見守ってきた子どもたちの“いつもありがとうございます”の言葉に、胸がいっぱいになります」「子どもたちから元気をもらえるすばらしい仕事です」

自転車マナーアップ強化月間

自転車による事故が多発しています。自転車に乗る際のマナーは交通安全に欠かせないものになっています。九都県市(埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県・横浜市・川崎市・千葉市・さいたま市・相模原市)では【自転車ものれば車のなかまいり】をスローガンに5月を自転車のマナーアップ強化月間として、自転車事故防止の強化を図っています。

●放置自転車対策

駅前では、路上や店舗前などに放置自転車が見られます。これらは歩行者の通行や、消防・救助活動の妨げになってしまいます。

自転車の放置はやめて駐輪場を利用しましょう。

自転車安全利用五則

- 一 車道が原則、左側を通行 歩道は例外、歩行者を優先
- 二 交差点では信号と一時停止を守って、安全確認
- 三 夜間はライトを点灯
- 四 飲酒運転は禁止
- 五 ヘルメットを着用

03 交通安全教室で学ぶ小学生

安全な道路の渡り方

学校の体育館内で、横断歩道マットを使用し練習しました。

子どもたちは手を挙げて道路を渡る意思表示をしてから、しっかりと左右を確認し渡っていました。



交通指導員の話聞きながら、しっかり手を挙げて渡れています。



右と左を確認して…



踏切を想定した練習で、左右から電車が来ないか慎重に確認します。

正しい自転車の乗り方

交通指導員から説明を受け、自転車の交通ルールや交通マナーを映像で学びました。

子どもたちは、真剣に聞いています。



交通指導員の質問に対し、みんなしっかり答えられていました。



自転車についての交通ルールをクイズで学習!



正しい自転車の乗り方や整備方法、ルールを学びます。

交通安全教室で指導した交通指導員



子どもたちが事故に遭わず、笑顔で登校できることが一番大事です。命に関わることなので、周囲にも気を付けながら、ルールをきちんと守ってほしいと思います。

小学3年生の男の子



交通安全教室は楽しかった。自転車の事故は怖いと思いました。ルールを守って自転車に乗りたいです。

小学5年生の女の子



自転車に乗るときのルールやマナーを、交通安全教室で教えてもらいました。守れていないこともあったので、気を付けていきたいと思いました。

04 地域みんなで取り組む交通安全

交通事故の加害者・被害者にならないためには、一人一人が交通安全について考え、交通ルールを守り正しいマナーを実践していく必要があります。そのため、さまざまな立場の人が交通安全のため、行動しています。



越谷警察署による交通安全運動の様子(左)
自転車や自動車による事故防止を呼びかけました。



春の全国交通安全運動出発式の様子(左)
交通安全運動に取り組むさまざまな団体が参加しました。



警察と市民団体が協力し、交通安全運動を行っている様子(左)
丁寧な説明で、交通安全の大切さを伝えます。



老人福祉センターくすのき荘での交通安全運動(左)
来館者の方に交通安全を呼びかけました。



交通安全ランドセル等贈呈式の様子(上)
交通安全協会からランドセルカバーのほか、黄色のワッペンや交通安全雨傘、防犯ブザーが市内小学校の新1年生に贈られました。

～交通事故0を目指して～

埼玉県越谷警察署 小柳交通課長



悲惨な交通事故から市民の皆さんを守るため、警察では、交通指導員さんをはじめとした地域の皆さんと協力した交通事故防止活動を展開中です。

越谷市では、自転車による交通事故、高齢者が関わる交通事故が多発しています。

自転車に乗るときはヘルメットを着用し、車の運転時には左右の確認と、「かもしれない運転」を心がけてください。

越谷市の運動重点

- ・自転車利用者の安全意識の向上及び交通ルールの遵守
- ・高齢者の交通事故防止

越谷警察署からのお知らせ

- ・自転車に乗る際はヘルメットを着用しましょう
- ・危険な道路横断は避けましょう。夜間の外出時はできるだけ明るい服装を選び、反射材をつけましょう
- ・車だけでなく自転車もお酒を飲んだら乗れません。飲酒運転は絶対にダメです
- ・運転中にスマートフォンを見ていませんか? 脇見運転は避けましょう